

環境基本情報

▼ [環境理念と環境方針](#)

▼ [環境マネジメント体制](#)

環境理念と環境方針

環境マネジメント

地球環境保全を最優先と捉え、事業活動にともなう環境負荷低減に取り組んでいます。

環境理念

当社は、地球環境及び地域環境の保全を最優先課題と捉え、緑あふれる地球を未来に残す責任ある一員として、「地球は我等の共通の広場なり」をスローガンに、環境に配慮した事業活動と地球環境保全の両立を目指します。

環境方針

- あらゆる事業活動から生ずる環境側面への影響評価を行い、自主的な改善計画を策定し、積極的な環境保全に努めます。
- 関連する環境法規制、その他の要求事項を遵守し、自主管理基準を設定し、環境汚染の未然防止に努めます。
- 環境目的・目標・実施計画を設定し、継続的な改善を行うことにより環境への負荷を軽減し、環境と調和する事業活動を目指します。また、それらは必要に応じて見直します。
- 環境教育や啓発活動を実施し、全従業員及び当社で働く全ての人への環境方針の理解と情報の周知をします。
- 環境情報は社外へ開示いたします。また地域や社会との交流を図り、環境保全活動に積極的に協力します。

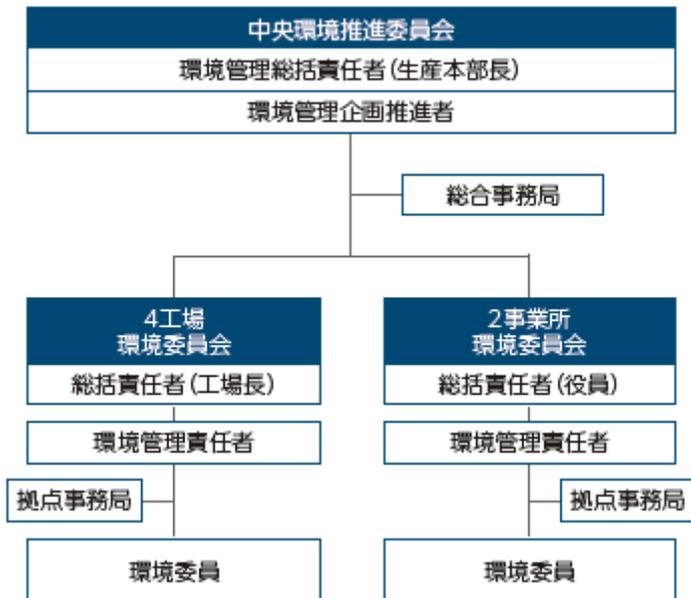
環境マネジメント体制

ジーテクトでは、地球環境問題を企業が取り組む最優先課題として考え、1998年からISO14001環境マネジメントシステム（EMS）の認証取得を進めてきました。各工場はISO14001EMSの環境委員会を単位として、各工場長が環境管理総括責任者を兼任し、環境のコンプライアンスや改善活動を継続的に進めています。これに本社とC&C栃木の2事業所を加え、これらの上位組織として中央環境推進委員会を設置し、全社的な地球環境改善活動に関する事項を統括しています。

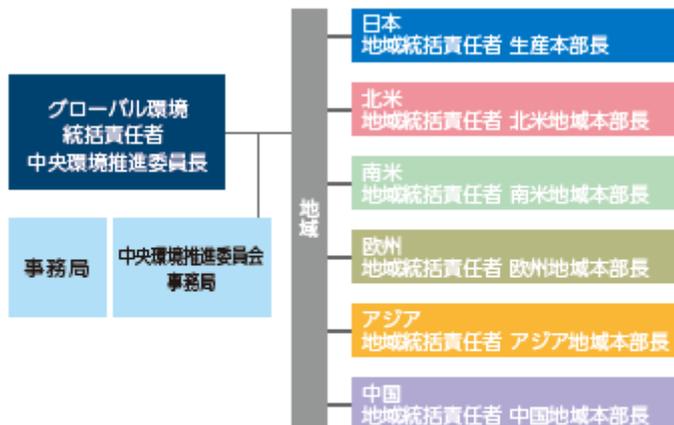
2018年度には、本社及びC&C栃木、GTL（ジーテクト東京ラボ）の事業所の拡大審査を実施し、国内は100%（事業所件数ベース）取得となりました。

また、2017年4月より「グローバルCSR会議」を定期開催し、各海外地域本部長を責任者として、グローバル全体における環境マネジメントの強化と情報共有に努めています。

●ジーテクト国内環境管理体制



●グローバル環境管理体制



ISO14001:2015 認証取得割合 (事業所件数ベース)

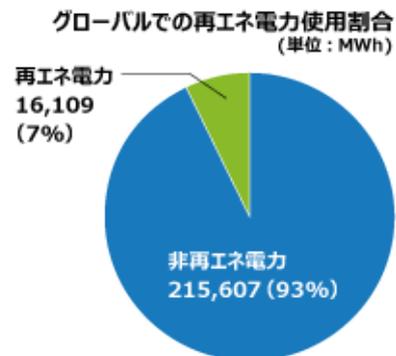
国内 **100%** 海外 **89%**

環境保全への主な取り組み

- ✓ [再生可能エネルギーの導入](#)
- ✓ [太陽光発電による電力の自家消費](#)
- ✓ [太陽光発電による電力の創出](#)
- ✓ [環境会計](#)
- ✓ [環境改善の取り組み](#)

再生可能エネルギーの導入

ジーテクトの中国工場（APAC・WAPAC）およびブラジル工場（G-KTB）では、環境にやさしい再生可能エネルギーを導入しています。今後は国内外の他の工場や事務所においても、積極的に再生可能エネルギーの導入を検討していきたいと思えます。



太陽光発電による電力の自家消費

海外拠点がある中国（APAC、WAPAC）・タイ（G-TEC、G-TTC）・インド（G-TIP）の計5工場では、工場の屋根に太陽光パネルを設置し、太陽光発電をおこなっています。発電された電力は自家消費、または購入することで、再生可能エネルギーを利用したCO₂排出量の削減に取り組んでいます。



インド太陽光発電

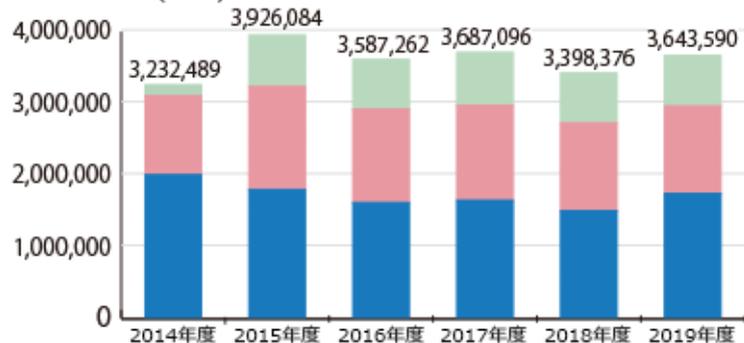
※ 再生可能エネルギーとは、石油や石炭、天然ガスといった有限な資源である化石由来のエネルギーとは違い、太陽光や風力、水力、地熱、バイオマス等の地球資源の一部など自然環境の中で繰り返し生起し、再利用可能または無尽蔵な供給が可能なエネルギーのことです。

太陽光発電による電力の創出

日本国内においては、埼玉工場、群馬工場、滋賀工場の3拠点においては、CO₂排出の少ない発電による電気を世の中に提供していく観点から、発電事業（全量売電）を2014年から行っています。

太陽光発電実績推移

太陽光発電量 (kWh)



埼玉工場

群馬工場

最大発電出力

埼玉工場 1,500kW

群馬工場 1,000kW

滋賀工場 500kW



滋賀工場

環境会計

(百万円)

	2017年度		2018年度		2019年度	
	投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内コスト	19.1	31.8	85.3	33.5	61.9	40.2
(公害防止コスト)	3.8	1.6	-	2.1	0	4.4
(地球環境保全コスト)	15.3	25.6	85.3	2.7	61.9	15.7
(資源循環コスト)	-	4.7	-	28.5	-	20.0
上・下流コスト	5.3	73.2	1.1	61.6	1.6	39.8
管理活動コスト	-	67.7	-	64.6	-	55.6
研究開発コスト	5.5	65.5	-	36.9	0	86.7
社会活動コスト	-	7.1	-	3.9	-	3.6
環境損傷対応コスト	-	-	-	-	-	0
合計	29.9	245.3	86.4	200.7	63.5	225.9

※環境省「環境会計ガイドライン(2018年版)」を参考とし、国内事業所を対象範囲として集計しています。

環境改善の取り組み

インド (G-TIP)

インドでは降水量の減少に加え、人口増加、地下水の過剰掘取等の複数の要因が重なり、水不足が深刻化。インド工場では事務所などで地下水を利用していることから、地方政府と協業し地下水不足対策の活動を実施しました。工場内の配管レイアウトの見直しや、トイレを下水再利用水（政府配給）に切り替えたことにより、68,000ℓ/日の節水となっています。



メキシコ (G-MEX)

コピー用紙の使用削減のため、社内文章用には裏紙を再利用しています。また、サプライヤーの皆様にも協力していただき、会社紹介やカタログ、パンフレットなど、電子形式で共有していただくようにしています。自社だけでなく、サプライチェーンも巻き込んだ活動をおこなっています。



G-MEX

En G-MEX estamos comprometidos con la protección del medio ambiente, creemos en el desarrollo sustentable por lo que tratamos de reducir cualquier impacto negativo de nuestras operaciones en el entorno.

Es por ello que solicitamos de su apoyo para el envío de curriculum empresarial, catálogos, trípticos etc., vía email a los siguientes correos:

mayte.vargas@gt-mex.com.mx
escoto.yaritza@gt-mex.com.mx
fregoso.homero@gt-mex.com.mx

NOTA: No se estará aceptando publicidad impresa; Gracias.

The graphic features the G-MEX logo at the top left. Below it is a paragraph in Spanish stating their commitment to environmental protection and sustainable development, and their goal to reduce negative impacts. A second paragraph requests support for sending business materials via email to three specific addresses. At the bottom, there is a note in Spanish stating they do not accept printed advertising. To the right of the text is a small icon of a laptop and a smartphone. The background is a green and white geometric pattern.

日本 (栃木工場)

スカイシート (アルミ箔を使用した特殊シート) を屋根に貼ることで、太陽の光を反射させ、屋根の温度上昇を抑える取り組みをおこないました。その結果、建物内部への輻射熱の影響を大幅に削減することができ、室温上昇を抑えることが出来ました。空調機の電力低減によるCO₂削減効果は、年間で16.7 tの削減となりました。



環境保全の主な実績

- ▼ [グローバルにおける環境負荷データ](#)
- ▼ [温室効果ガス排出量](#)
- ▼ [水資源使用量](#)
- ▼ [廃棄物発生量](#)
- ▼ [日本国内 マテリアルフロー](#)
- ▼ [日本国内におけるサプライチェーン環境負荷データ](#)

グローバルにおける環境負荷データ

ジーテクトグループでは持続可能な事業活動を念頭に、企業活動の全ての領域において環境負荷の低減を図り、エネルギー消費量の削減や水使用量・廃棄物の低減への取り組みを行っています。

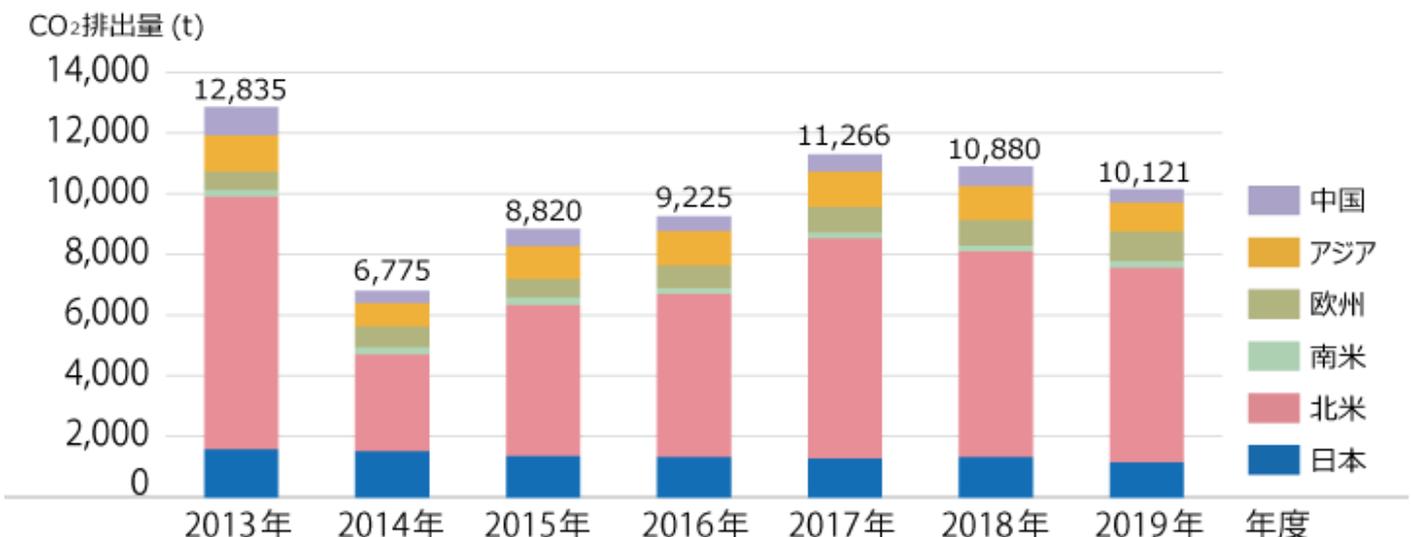
2019年度は、日本・北米を中心に世界的な自動車生産台数が減少。さらに第4四半期には新型コロナウイルス感染症のパンデミック影響から操業停止となった地域もあり、生産に伴うエネルギー消費量は減少しました。エネルギー消費量の約82%を占める電力使用量は前年比で約4%の減少となり、またタイのG-TECにて太陽光発電の自家消費を開始したことにより再エネ電力使用量は前年比8%増加しました。CO₂総排出量(Scope1+2)は124,031t-CO₂、対前年比5%の削減となりました。

■ 対象範囲

「環境負荷データ」では、ジーテクト及び海外連結子会社と持分法適用関連会社（50%で算出）の合わせて20社の事業活動におけるデータを掲載します。

温室効果ガス排出量

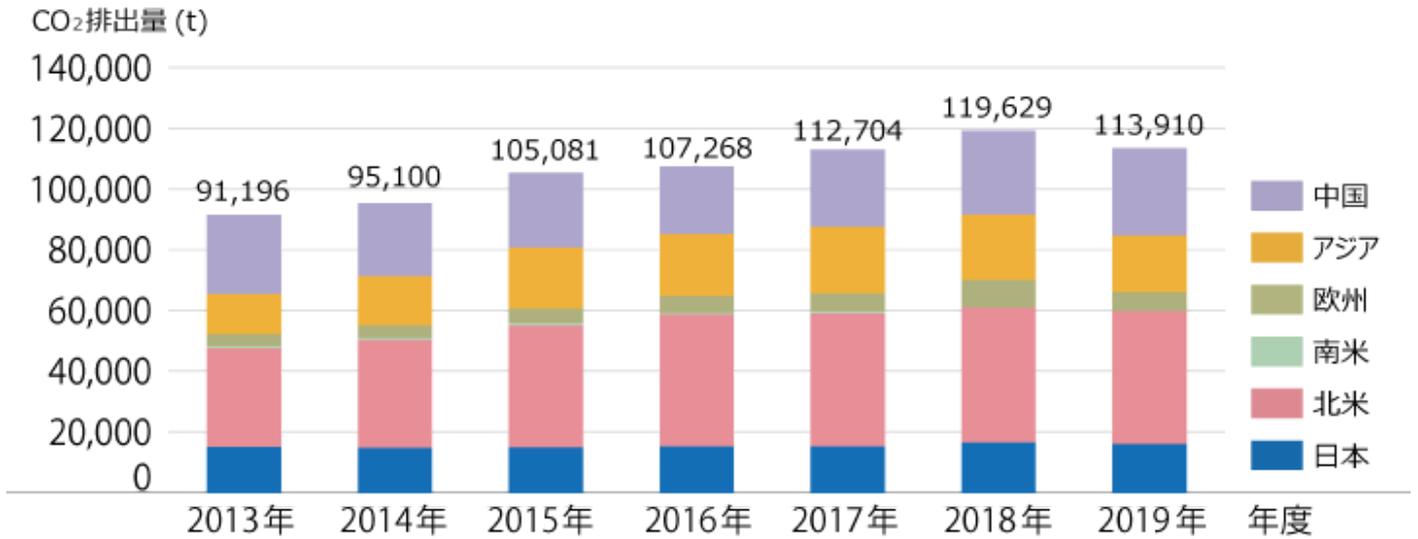
直接排出量（スコープ1）



スコープ1：

企業活動による温室効果ガスの直接排出（A重油、軽油、灯油、ガソリン、LPG、天然ガスの燃焼によるエネルギー利用。フォークリフト、社用車に使用するLPG、ガソリン、軽油燃料消費による排出を含む）。

間接排出量（スコープ2）



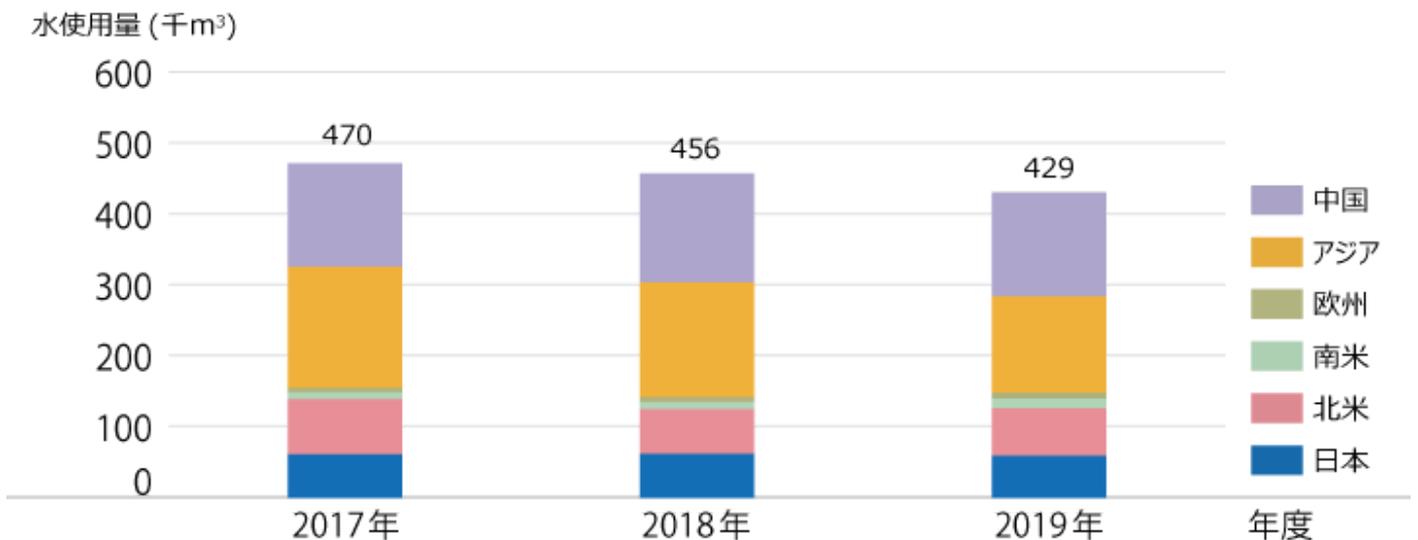
スコープ2：

企業活動による温室効果ガスの間接排出（電力エネルギーの使用）。

日本は地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく排出係数(0.378t-CO₂/MWh)を、日本以外はIEA, Emissions from Fuel Combustion の2008年排出係数を利用。

水資源使用量

水資源使用量

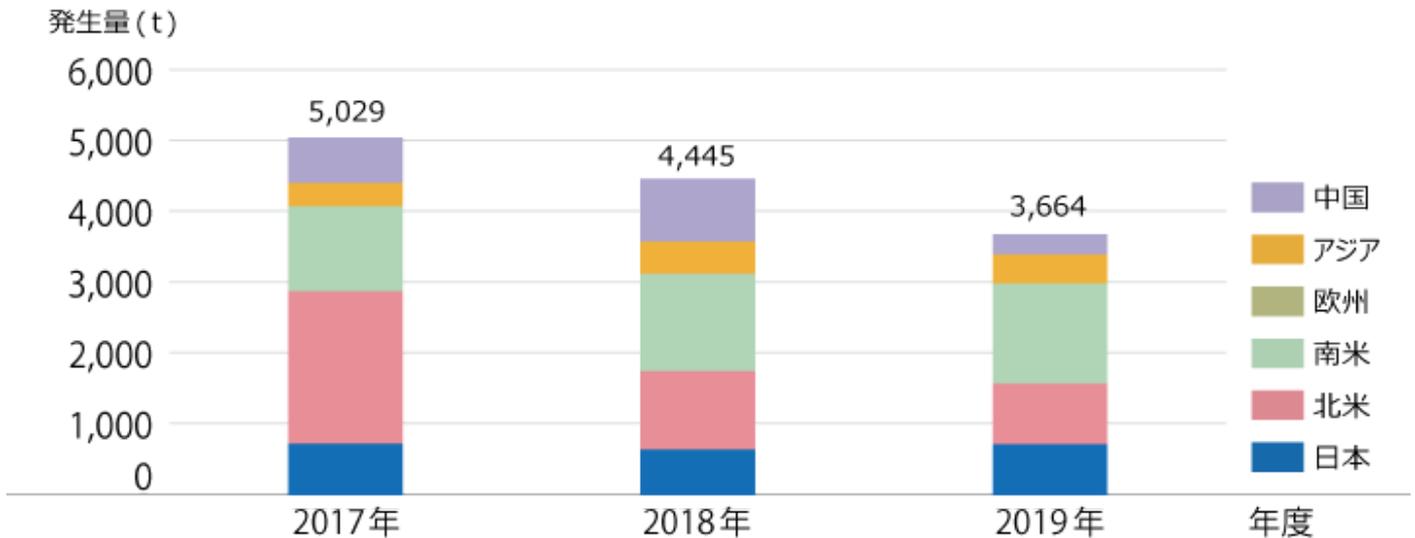


算定方法：

使用量 = Σ (水道施設からの購入量 + 地下水取水量)

廃棄物発生量

廃棄物発生量



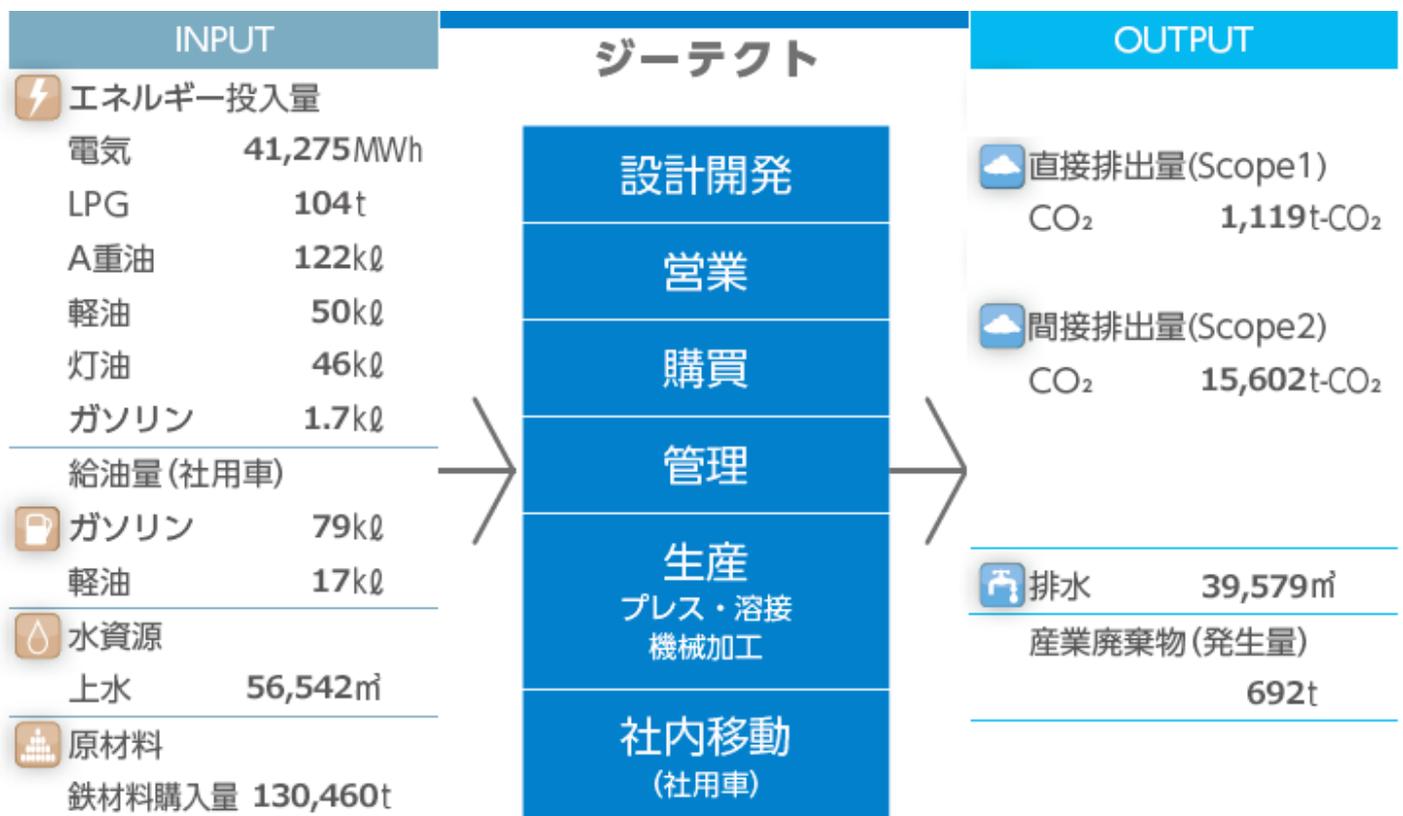
注) 2019年度の中国の一部拠点については、有償廃棄物の発生量は未把握となっています。

算定方法：

発生量 = Σ (産業廃棄物発生量 + 事業系一般廃棄物発生量)

但し、日本以外は有償処理委託をしている廃棄物発生量。

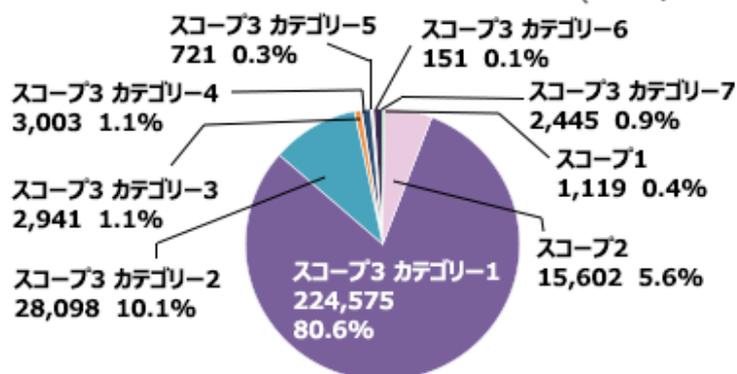
日本国内 マテリアルフロー (※2019年度実績値)



日本国内におけるサプライチェーン環境負荷データ

ジーテクトは、サプライチェーンでの環境負荷を把握することにより、取引先と共にサプライチェーン全体でのCO₂排出量削減に取り組んでいます。なお、2019年度分より、スコープ3の把握対象範囲を広げて算出しています。この結果、カテゴリ-1において鋼板購入を追加したことにより、昨年度に比べて大幅に増加しています。（鋼板購入で全体の80%を占める。カテゴリ-2, 3, 5, 6, 7は新規把握。）

2019年度日本国内サプライチェーンCO₂排出量内訳 (t-CO₂)



スコープ1 :	当社の温室効果ガスの直接排出量
スコープ2 :	他社から供給された電気の使用に伴う間接排出量
スコープ3 :	カテゴリ-1 購入した物品・サービス
	カテゴリ-2 資本財
	カテゴリ-3 燃料・エネルギー関連の活動
	カテゴリ-4 上流の輸送・流通
	カテゴリ-5 事業において発生した廃棄物
	カテゴリ-6 出張
	カテゴリ-7 従業員の通勤

生物多様性への取り組み

▼ [生物多様性ガイドラインと重点取り組み](#)

▼ [ジーテクトの森林づくり活動](#)

▼ [埼玉県森林づくり協定](#)

▼ [かぶとむしの里協賛](#)

▼ [しが生物多様性取り組み](#)

生物多様性ガイドラインと重点取り組み

ジーテクトでは、最重要課題である地球環境保全の中で、自社の事業活動が影響を及ぼす可能性のある「生物多様性」について、2014年度より「G-TEKT生物多様性ガイドライン」を定め、更なる取り組みに着手し始めました。

G-TEKT生物多様性ガイドライン

G-TEKTは、「G-TEKT環境理念」における「地球環境保全」の重要な取り組み課題として「生物多様性の保全及び持続可能な利用」を認識し、事業活動との両立を図っていきます。

■ 重点取り組み

1. 環境先進技術の追求
業界TOPの環境負荷の低い商品開発と量産化により、生物多様性の保全に貢献していきます。
2. 事業活動における取り組み
生産効率向上の追求により環境負荷を低減し、生物多様性に及ぼす影響の低減および持続可能な利用に努めます。
3. 地域社会とのコミュニケーション
地域社会と連携した環境保全活動並びに社会貢献活動に積極的に協力し、地域社会との交流を図っていきます。

ジーテクトの森林づくり活動

ジーテクトでは、生物多様性の取り組みの一環として、2014年から「企業の森林づくり」活動を開始しました。「企業の森林づくり」とは、森林づくり活動の場所を提供する市町村等及び活動を支援する県、森林づくり活動を行う企業・団体の3者が協定を結び、協力して森林づくりを行う取り組みです。私たちジーテクトは、『未来の子どもたちに、緑あふれる地球を引き継いでいく』をスローガンに、この取り組みに参加しています。



埼玉県森林づくり協定

協定の締結

[埼玉工場・羽村地区・本社・群馬工場]

2015年2月4日に「埼玉県森林づくり協定」を埼玉県、ときがわ町と締結しました。

活動実績

[埼玉県ときがわ町弓立山にて]

弓立山（標高420m）は2013年5月の森林火災により、約7.6haの焼失被害を受けました。この山を再生すべく、2015年4月よりジークトの森林づくり活動を開始しました。

2019年4月「第9回ジークトの森林づくり」を開催し、ミツバツツジの苗木100本を植林しました。また、同年9月には第10回目を迎え、下刈り活動を行いました。併せて総勢46名の従業員が参加しています。

また、これまでの植樹活動を通して合計16.9 tのCO₂を吸収量として埼玉県より認証を受けています。



埼玉県森林CO₂吸収量認証書

株式会社ジークト
埼玉工場長 中西 孝裕 様

平成27年度に貴社が森林整備活動を行った森林のCO₂吸収量について、次のとおり認証します。

CO₂吸収量 5.4 t-CO₂/年

認証の 対象	森林の所在地	ときがわ町大字大塚地区内
	森林の種類	1年生 広葉樹林
	森林の面積	0.7ヘクタール
	認証内容の有効期間	認証書交付日から平成32年3月31日まで
備考	認証する吸収量は、人間の呼吸によるCO ₂ の年間排出量に換算すると、16人分に相当します。	

この認証書は、申請者の社会貢献活動の証として、埼玉県が認証した森林のCO₂吸収量として、広葉樹等が定められた用途に利用することができます。

平成27年11月30日

埼玉県知事 上田 清司

埼玉県森林CO₂吸収量認証書

株式会社ジークト
生産本部長 中西 孝裕 様

平成28年度に貴社が森林整備活動を行った森林のCO₂吸収量について、次のとおり認証します。

CO₂吸収量 6.9 t-CO₂/年

認証の 対象	森林の所在地	ときがわ町大字大塚地区内
	森林の種類	1-2年生 広葉樹林
	森林の面積	0.9ヘクタール
	認証内容の有効期間	認証書交付日から平成32年3月31日まで
備考	認証する吸収量は、人間の呼吸によるCO ₂ の年間排出量に換算すると、23人分に相当します。	

この認証書は、申請者の社会貢献活動の証として、埼玉県が認証した森林のCO₂吸収量として、広葉樹等が定められた用途に利用することができます。

平成29年1月20日

埼玉県知事 上田 清司

埼玉県森林CO₂吸収量認証書

株式会社ジークト
生産本部長 中西 孝裕 様

平成29年度に貴社が森林整備活動を行った森林のCO₂吸収量について、次のとおり認証します。

CO₂吸収量 4.6 t-CO₂/年

認証の 対象	森林の所在地	民都立ときがわ町大字大塚字弓立山地区内
	森林の種類	1年生 広葉樹林
	森林の面積	0.6ヘクタール
	認証内容の有効期間	認証書交付日から平成32年3月31日まで
備考	認証する吸収量は、人間の呼吸によるCO ₂ の年間排出量に換算すると、14人分に相当します。	

この認証書は、申請者の社会貢献活動の証として、埼玉県が認証した森林のCO₂吸収量として、広葉樹等が定められた用途に利用することができます。

平成30年1月12日

埼玉県知事 上田 清司

かぶとむしの里協賛

滋賀工場では2018年から地元の甲賀市にある「かぶとむしの里」に協賛しています。

毎年夏季限定で開園する「かぶとむしの里」では、鈴鹿山麓で育った天然のカブトムシやクワガタがビニールハウス内の木々に放たれ、自然の状態に触れ合うことができます。カブトムシの生態観察や採集など、見て、触れて、学ぶことができます。



しが生物多様性取り組み

滋賀県では、生き物を守り、自然資源を持続的に利用している事業者を応援するため、2018年より「しが生物多様性取組認証制度」を実施しています。

2018年にジーテクト滋賀工場が「しが生物多様性取組認証」の3つ星として認定されました。

定期的に工場周辺の道路のゴミ拾いや草刈りを実施したり、植林活動を行っています。

